

平成 25 年 度

事業報告書

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日

公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

目 次

I. 海洋センター所在市町村の概要	1
II. 法人の概況	2
1. 設立年月日	2
2. 定款に定める目的	2
3. 定款に定める事業内容	2
4. 所在地	2
5. 基本財産の額	2
6. 行政庁	2
7. 役員に関する事項	2
8. 職員に関する事項	2
III. 管理業務	3
1. 役員及び評議員	3
2. 専門委員	3
3. 会議	3
4. 事務局	5
IV. 事業の実施状況	
【公益目的事業】	
【1】 青少年の健全育成に関する事業	6
1. 自然体験・環境教育活動	6
2. 大会・交流活動	11
3. 助成・活動支援	14
【2】 幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業	19
【3】 指導者の養成に関する事業	19
1. 海洋性レクリエーション指導員の養成と活用	19
【4】 ネットワーク構築と調査研究等事業	27
1. ネットワーク構築	27
2. 調査研究等の活動	31
3. 広報活動	33
【収益事業】	
1. 土地賃貸事業	37

I. 海洋センター所在市町村の概要

(海洋センター所在市町村の数)

平成 25 年度は、東日本大震災を起因とするプール給排水設備等の不良により 1 センター（青森県七戸町）を廃止すると共に、自治体（千葉県睦沢町）の要望により海洋センター廃止後も、海洋センター扱いとしていた「総合運動公園」を、同施設の民間委託に伴い扱いを解除した。

平成 26 年 3 月末日現在、海洋センター所在市町村数は 218 市、159 町、13 村で 390 ヲ所、海洋センター数は 472 ヲ所となった。

(海洋センターの利用状況)

全国の「海洋センター」では、海洋性レクリエーションの実践活動を通じた青少年の健全育成、スポーツを通じた地域住民の健康づくりなどを積極的に推進している。

平成 25 年度は、夏季の猛暑や悪天候、台風災害などが影響し、「海洋センター」の総利用者人数は、前年度比 17 万人減の、年間 1,011 万人となった。

(海洋センターの現状と評価)

第 6 回「B & G 全国サミット」は過去最多となる 213 名の市・町・村長をはじめ、660 名もの海洋センター関係者が出席した。自治体執行部の各種会議への出席により、財団や財団事業に対する理解が深まり、多くの海洋センターでは、B & G 指導者の適正配置や積極的な事業展開が行われている。

「海洋センター」活性化の指標とする「海洋センター評価」は、運営が良好な「B 評価」以上の海洋センターは、昨年の 89.5%から平成 25 年度では、91.5%にまで増加した。

(東日本大震災被災施設への対応)

「東日本大震災」で艇庫が全壊した岩手県洋野町に対し、特別支援として 10,000,000 円の災害復旧修繕助成金の交付を行った他、4,000,000 円相当の舟艇器材を配備した。

艇庫施設の復旧は平成 25 年度内に完了し、平成 26 年 7 月から本格的に活動を再開する。

その他、施設が全壊した 6 センター10 施設についても、復興計画に基づき、日本財団・ボートレース業界の理解を願い、海洋センター再建の支援を行う。

II. 法人の概況

1. 設立年月日 昭和 48 年 3 月 28 日

「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い、平成 24 年 3 月 21 日付で内閣総理大臣より公益財団法人への移行認定を受け、平成 24 年 4 月 1 日付で公益財団法人となった。

2. 定款に定める目的

この法人は、わが国の青い海と緑の大地を実践の場とし、主として海洋性レクリエーション事業を軸とした青少年の健全育成、身体活動を通じた幼児から高齢者までの心身の健康づくり、水の安全教育と海事知識並びに環境保全の普及・啓発等、公益の増進を図る事業の振興に寄与し、海洋国日本の発展に資することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成に関する事業
- (2) 幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業
- (3) 水の安全教育と海事知識の普及・啓発に関する事業
- (4) 国際交流と環境保全を推進する事業
- (5) 指導者養成に関する事業
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 所在地 東京都港区虎ノ門 3-4-10 (虎ノ門 35 森ビル 9F)

5. 基本財産の額 (円)

取得価額	時価評価額	差異
6,560,000,000	6,944,707,800	384,707,800

※時価評価額については、平成 26 年 3 月 31 日現在の有価証券の評価益を含んだ額である。

6. 行政庁 内閣府

7. 役員に関する事項

Ⅲ. 管理業務の 1. 役員 (理事・監事) 及び評議員の選任を参照

8. 職員に関する事項

Ⅲ. 管理業務の 4. 事務局を参照

Ⅲ. 管理業務

1. 役員（理事・監事）及び評議員

（1）役員

平成 26 年 3 月 31 日現在の役員は、別表 1「役員名簿」（38 頁）のとおり、理事 6 名（会長 1 名、専務理事 1 名、常務理事 1 名、理事 3 名）、監事 2 名である。

平成 25 年度における役員の異動は次のとおりである。

平成 25 年 6 月 19 日付 第 4 回評議員会にて理事の選任が行われ、理事 6 名（梶田 功 氏・古山 透 氏・重 由美子 氏・高良 文雄 氏・山中 健 氏は再任、菅原 悟志 氏は新任）、監事 2 名（篠原 通夫 氏・西本 克己 氏 共に再任）が就任した。

なお、広渡 英治 氏・大島 康雄 氏・吉田 哲朗 氏・中村 真衣 氏・船越 眞 氏は同日付で退任となった。

また、同年 6 月 20 日付 第 5 回理事会にて代表理事、業務執行理事が選定され、下記のとおり就任した。

代表理事	会長	梶田 功（再 任）
代表理事	専務理事	菅原 悟志（新 任）
業務執行理事	常務理事	古山 透（再 任）

（2）評議員

平成 26 年 3 月 31 日現在における評議員は、別表 2「評議員名簿」（39 頁）のとおり、10 名である。

2. 専門委員（海洋センター施設整備委員）

平成 26 年 3 月 31 日現在における専門委員は、別表 3「専門委員名簿」（40 頁）のとおり 7 名である。

平成 25 年度における専門委員の異動は次のとおりである。

○平成 25 年 7 月 1 日をもって、海洋センター施設整備委員会規則（達 第 26 号）に基づき、専門委員 7 名（宇井 成一 氏、大西 英輔 氏、小池 保夫 氏、小林 元一 氏、田久保 雅己 氏、田畑 誠一 氏、広瀬 秀貴 氏 全て再任）が就任した。

3. 会議

（1）理事会

①第 4 回理事会

ア. 時 期：平成 25 年 6 月 5 日（水）午後 4 時 00 分

イ. 場 所：B & G 財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第 1 号議案 平成 24 年度事業報告書の承認に関する件

第2号議案 平成24年度決算書の承認に関する件

第3号議案 第4回評議員会招集に関する件

②第5回理事会

ア. 時 期：平成25年6月20日（木）午前11時00分

イ. 場 所：B & G財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第1号議案 会長、専務理事及び常務理事の選定に関する件

第2号議案 諸規程の一部改正に関する件

第3号議案 顧問の選任に関する件

③第6回理事会

ア. 時 期：平成25年10月1日（火）午前11時00分

イ. 場 所：B & G財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第1号議案 平成26年度日本財団助成申請事業の承認に関する件

第2号議案 海洋センターの廃止に関する件

第3号議案 第5回評議員会招集に関する件

④第7回理事会

ア. 時 期：平成26年2月18日（火）午後4時00分

イ. 場 所：B & G財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第1号議案 平成26年度事業計画および収支予算の承認に関する件

第2号議案 第6回評議員会招集に関する件

(2) 評議員会

①第4回評議員会

ア. 時 期：平成25年6月19日（水）午後4時00分

イ. 場 所：B & G財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第1号議案 平成24年度事業報告書の承認に関する件

第2号議案 平成24年度決算書の承認に関する件

第3号議案 理事及び監事の選任に関する件

第4号議案 定款の一部変更に関する件

第5号議案 退職慰労金の支給に関する件

第6号議案 常勤理事の報酬に関する件

②第5回評議員会

ア. 時 期：平成25年10月11日（金）午前11時00分

イ. 場 所：B & G財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第1号議案 平成26年度日本財団助成申請事業の承認に関する件

第2号議案 海洋センターの廃止に関する件

③第6回評議員会

ア. 時 期：平成26年2月25日（火）午後4時00分

イ. 場 所：B & G財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第1号議案 平成26年度事業計画および収支予算の承認に関する件

(3) 専門委員会（海洋センター施設整備委員会）

①第16回海洋センター施設整備委員会

ア. 時 期：平成25年9月26日（木）午後4時00分

イ. 場 所：B & G財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第1号議案 委員長の選任に関する件

第2号議案 平成26年度「修繕助成」に関する件

第3号議案 地域海洋センターの廃止に関する件（青森県七戸町）

4. 事務局

(1) 機構

平成26年3月31日現在における事務局の機構は、別表4（41頁）のとおり、5部9課である。

(2) 人員

平成25年度における職員退職は1名であった。また契約職員1名を採用した。平成26年3月31日現在における職員は28名、契約職員は3名である。

IV. 事業の実施状況

【公益目的事業】

【1】青少年の健全育成に関する事業

1. 自然体験・環境教育活動

(1) 海を守る植樹教育 ※日本財団助成事業

どんぐりから苗を育て植樹する「体験型の環境教育」を通じて、自然の役割を学び、環境保全の意識を高めていくことを目的として、育苗と植樹の支援を行った。地域の方々と連携して実施することにより、地域を活性化するとともに、防災林の整備にもつなげた。

① 植樹リーダー研修会の開催

地域での育苗・植樹事業を推進するため研修会を実施し、指導者を養成した。

ア. 時 期：平成 25 年 5 月 8 日（水）～10 日（金）

イ. 場 所：社会福祉法人進和学園「しんわルネッサンス」（神奈川県平塚市）

ウ. 人 数：24 名

エ. 内 容：基調講演、講義、現場実習、フィールドワーク、事例発表
植樹地見学等

オ. 講 師：宮脇 昭 氏、林 寿則 氏、高野 義武 氏、石村 章子 氏
社会福祉法人進和学園スタッフ等

② 植樹事業（育苗）の支援

育苗を実施した海洋センター及び海洋クラブ等 20 ヲ所に対し、事業経費の補助（上限各 10 万円、総額 1,580,919 円）を行うとともに、情報の提供等協力を行った。

No.	道府県	センター・クラブ	区 分	参加延人数
1	北海道	鷹栖町海洋センター	育苗	15 人
2	北海道	遠別町海洋センター	育苗	32 人
3	北海道	美幌町海洋センター	育苗	28 人
4	北海道	小樽海洋クラブ	育苗	11 人
5	岩手県	奥州市前沢海洋センター	育苗・植樹	11 人
6	埼玉県	久喜市栗橋海洋センター	育苗	29 人
7	石川県	穴水町海洋センター	育苗・植樹	14 人
8	静岡県	掛川市大東海洋センター	育苗	484 人
9	静岡県	掛川市海洋センター	育苗	216 人
10	静岡県	掛川市大須賀海洋センター	育苗	234 人
11	兵庫県	家島海洋クラブ	育苗	32 人
12	島根県	雲南市加茂海洋センター	育苗	59 人

13	山口県	周防大島町海洋センター	育苗	43人
14	徳島県	阿南市海洋センター	育苗	63人
15	愛媛県	久万高原町久万海洋センター	育苗	163人
16	高知県	津野町東津野海洋センター	育苗	32人
17	高知県	香美市香北海洋センター	育苗	41人
18	佐賀県	鹿島市海洋センター	育苗	53人
19	沖縄県	伊江村海洋センター	育苗	162人
20	沖縄県	名護市海洋センター	育苗	25人
合 計： 20カ所 1,747人				

③ 植樹事業（植樹）の支援

植樹を実施する海洋センター4カ所に対し、事業経費の補助（上限各50万円、総額2,000,000円）を行うとともに、情報の提供、適正樹種決定のための専門家による植生調査等協力を行った。

No.	道府県	センター・クラブ	植樹日	植樹本数	参加人数
1	北海道	せたな町海洋センター	5月24日	904本	98人
2	岩手県	奥州市前沢海洋センター	9月7日	3,400本	250人
3	石川県	穴水町海洋センター	8月25日	600本	130人
4	鹿児島県	与論町海洋センター	12月23日	2,357本	288人
合 計： 4カ所 7,261本 766人					

④ 植樹広報用映像の制作

植樹教育事業の普及を目的とした映像を制作し、インターネット等で公開した。また、植樹ブログを通して、育苗・植樹情報を広く提供するとともに、植樹指導者との情報共有を行った。

No.	タイトル	時間
1	事業PR	8分31秒
2	森づくりの大切さを学ぶ（子供用）	10分28秒
3	苗の育て方を学ぶ（子供用）	6分00秒
4	植樹の仕方を学ぶ（子供用）	6分16秒
5	「育苗」の実施方法（植樹リーダー用）	6分24秒
6	「植樹」の実施方法（植樹リーダー用）	8分06秒

植樹ブログ「小さな苗木で大きな海を」掲載件数 85件

(2) 水の事故をゼロにするための周知活動の実施 ※日本財団助成事業

各幹事・パートナーと連携し、これまでの3年間の「水の事故ゼロ運動」の実績等をまとめ、今後の日本の社会に、自然との共存や自助意識を根付かせるため以下の事業を実施した。

① 安全教育事業

ア. 全国の小学校等を対象にした「水辺の安全教室」等の定着のための開催支援

(ア) パートナーが実施する「水辺の安全教室」参加者ならびに「水辺の安全教室」の実施団体、学校等に下記学習教材および安全器材等の配付・貸出を行った。

・実績：152 団体

教材	配布数
安全手帳	11,365
紙芝居	151
DVD	1,023
シール	10,787

器材	貸出数
ライフジャケット	1,000
レスキューチューブ	70
スローバック	80
AEDトレーナー	6
レサシアン	5
ニッパーボード	20

・平成25年度活動状況

体験	啓発	合計
100,934人	134,746人	235,680人

(平成26年2月末集計)

(イ) 「水辺の安全教育推進校」表示証の交付

「水辺の安全教室」実施校に対して、申請に基づき「水辺の安全教育推進校」の表示証の交付を行った。

・交付数：48校（都内12校、地方36校）

(ウ) 都内近郊における「水辺の安全教室」等の実施

東京都区内の小学校またはPTAなど保護者の要請を受け、小学校プールを会場として、小学生を対象に、カヌー体験などの海洋性レクリエーション活動と、ライフジャケット浮遊体験や落水時の対処法・水の安全紙芝居などの水辺の安全教育活動を実施した。

・実績：都内12校、参加者 1,193人（児童1,011人、教諭・保護者182人）

イ. 講師等の派遣及び斡旋

パートナー等が自主開催する「水辺の安全講習会」等へ講師等の派遣及び斡旋を行った。

・実績：10カ所、講習会参加者 合計 3,120人

ウ．海外業務提携先との情報・意見交換

提携先が主催する「水の安全会議」等へ参加し、情報交換を行うとともに、インターネット等を通じた今後の情報交換について説明を行った。

(ア) 水の安全教育国際会議への参加

日本における水の事故ゼロ運動の3カ年の活動報告を行うために、水の安全教育国際会議へ参加した。

- ・会議名：水の安全教育国際会議
- ・主催：ウォーターセーフティニューージーランド、オーストスイム
- ・時期：平成25年10月4日（金）～5日（土）
- ・場所：リッジスレイクランドホテル（ニューージーランド キーンズタウン市）
- ・出席者：300名
- ・参加国：ニューージーランド、オーストラリア、アメリカ、イギリス、ドイツ、香港、日本（7カ国）
- ・WSN発表内容（30分間）：
 - ・世界と日本の水の事故の状況
 - ・ウォーターセーフティニッポンとB&G財団の活動紹介
 - ・地域との連携について
 - 埼玉県警察との連携（長瀬コースロープ設置）
 - 水辺の安全教室（小学校）
 - 防災教育（三重県志摩市、岩手県大船渡市の小学校）
 - 啓発活動（海上保安庁、著名人活用、標語の募集など）

②啓発・普及事業

ア．水辺の安全教室実施校におけるプログラム実施後の意識調査等の実施

B&G財団により、「水辺の安全教室」を複数年にわたって実施している全国の小学校から選出した、251校の児童・教員・保護者を対象として、「水辺の安全教室」のプログラムについて、アンケート調査を実施した。

イ．行政・地方自治体との協力

(ア) 海上保安庁とパートナーとの連携強化

海上保安庁、警察、消防、地方自治体をはじめとする行政の水の安全活動と共同歩調を取るため、水の安全活動の協力等を行った。

- ・実績：2カ所 参加人数4,164人
- ・協力行政機関：海上保安庁 第一管区海上保安本部小樽海上保安部
北海道北後志消防組合 積丹支署
海上保安庁 第六管区海上保安本部柳井海上保安署

(イ) W S Nが制作した映像の提供

自治体ケーブルテレビ（CATV）での「水辺の安全教育映像」の放映を推進するため、自治体の協力をいただき、W S Nが制作した水の安全教育映像「自助と救助」を地元のケーブルテレビを通じて放映していただき、水の安全啓発を図った。

放映自治体：15自治体

ウ．安全防止対策の発信

年間を通じて、W S Nのブログ、メールマガジン、フェイスブックを活用し、水の安全プログラムやマニュアルの提供を行うとともに、顕著な事故が発生したときに、事故の発生と安全啓発について情報を発信した。

エ．W S N幹事会の開催

(ア) 第8回幹事会

時 期：平成25年6月20日（木）

場 所：B & G財団会議室（東京都 港区）

決議事項：平成24年度 活動報告について
水の事故ゼロ運動について

(イ) 第9回幹事会

時 期：平成25年10月24日（木）

場 所：B & G財団会議室（東京都 港区）

決議事項：水の事故ゼロ運動の終了と当協議会の解散について
水の事故ゼロ運動の終了並びに当協議会の解散に伴う事務処理について

(ウ) 第10回幹事会

時 期：平成26年3月26日（水）

場 所：富国生命ビル（東京都 千代田区）

決議事項：平成25年度 事業報告について

(3) 学校教育等と連携した水辺での体験プログラムの提供

ホームページ等でプログラムやマニュアルの提供を行うとともに、海洋センターや学校等の取り組み事例を紹介した。

2. 大会・交流活動

(1) B & G全国スポーツ大会 ※日本財団助成事業

①「2013 B & G全国ジュニア水泳競技大会」

小中学生を対象に道府県対抗戦として競技大会を実施したほか、オリンピックメダリストの泳法披露や、選手・指導者間の交流を図る交流会や練習会を実施した。

- ・時期：平成25年8月17日（土）※前日16日に交流会・練習会を実施
- ・場所：東京辰巳国際水泳場
- ・人数：競技大会／461人（24道県連絡協議会 66海洋センター）
交流会等／372人
※「インターネット水泳記録会」の記録上位者男女6名を招待
※指導者・保護者等を含む総入場者数 約1,500人
- ・種目：年齢区分／小学3・4年生、小学5・6年生、中学生の3区分
- ・競技種目：自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ、メドレーリレー、フリーリレーの6種目
- ・距離：50m、100m、200m（男女別）
- ・種目数：個人26種目、リレー4種目 計30種目
- ・結果：

総合順位	1位：埼玉県 2位：兵庫県 3位：千葉県
男子	1位：兵庫県 2位：千葉県 3位：富山県
女子	1位：埼玉県 2位：兵庫県 3位：高知県
最優秀選手	森田 遥大（小4・男子） 兵庫県上郡町海洋センター 湯澤 胡桃（小3・女子） 栃木県芳賀町海洋センター
優秀選手	武 快飛（小3・男子） 群馬県玉村町海洋センター 小林 伸明（小5・男子） 新潟県燕市海洋センター 阪本 裕也（中2・男子） 三重県大紀町大内山海洋センター 和佐 楓（小4・女子） 福岡県柳川市大和海洋センター 森中 優花（小6・女子） 兵庫県上郡町海洋センター 千葉美捺穂（中3・女子） 埼玉県嵐山町海洋センター
大会記録更新数	7種目 14個

②「B & G杯全国少年少女カヌー大会」

日本唯一の「小学生を対象とする日本カヌー連盟公認の全国大会」として開催した。

公益社団法人 日本カヌー連盟と共催して、レース初心者から次代のトップ選手まで参加できる種目別・男女別の競技大会と、カヌーの普及を目的に初心者を対象とするカヌー体験会、水辺の安全教室、東日本大震災支援のチャリティ販売と募金活動を実施した。

なお、今回は「JOC ジュニアオリンピックカップ全国中学生カヌー大会」との同時開催となった。

ア. 時 期：平成 25 年 7 月 26 日（金）～7 月 27 日（土）

イ. 場 所：精進湖（山梨県 富士河口湖町）

ウ. 人 数：152 人（28 府県 41 チーム）

- ・海洋センター・クラブから 10 チーム 45 名が参加
- ・カヌー体験会：39人（子供：27人 大人：12人）

エ. 競技種目：4 年生以下普及艇、5・6 年生普及艇、K-1、K-2（各 200m）
フラットスラローム

オ. 結 果：

順位 種目	1 位	2 位	3 位
男子小学 4 年 生以下普及艇	ミンドラム マーカス 廣紀	吉岡 和美	蒔田 遊士
	B&G 飯塚穂波海洋クラブ だいぶ支部	佐倉市カヌー協会	湘南カヌースポーツクラブ
女子小学 4 年 生以下普及艇	大戸 章花	高橋 ひなた	土田 華
	戸田ドルフィンカヌースポーツ少年団	この指とまれ☆ NAWMAN'S	石川県カヌー協会 かけはし海洋クラブ
男子小学 5・ 6 年生普及艇	斎藤 康祐	ミンドラム ロバート 誠也	毛利 圭太
	萌明幼児館カヌークラブ	B&G 飯塚穂波海洋クラブ だいぶ支部	松戸市カヌー協会 ・エルフィンキッズ
女子小学 5・ 6 年生普及艇	村野 由奈	小島 はづき	松本 彩
	B&G 飯塚穂波海洋クラブ だいぶ支部	萌明幼児館カヌークラブ	倉吉市関元 B&G 海洋センター イルカカヌークラブ
男子カヤック シングル	佐々木 絵	北嶋 優翔	安井 堅士朗
	本荘ジュニアカヌークラブ	本荘ジュニアカヌークラブ	久美浜ジュニアカヌーチーム
女子カヤック シングル	柳堀 あいり	平泉 真衣	野間 咲月
	B&G 香取市小見川海洋クラブ	河北カヌークラブ	和知ジュニアカヌークラブ
男子カヤック ペア	佐々木 絵 北嶋 優翔	松川 瑛 阿部 智礼	安井 堅士朗 奥田 辰輝
	本荘ジュニアカヌークラブ	本荘ジュニアカヌークラブ	久美浜ジュニアカヌーチーム
女子カヤック ペア	小出 菜々子 北條 明日香	野間 咲月 梅原 三和	越田 彩華 土田 栞
	佐倉市カヌー協会	和知ジュニアカヌークラブ	石川県カヌー協会 かけはし海洋クラブ
男子フラット スラローム	斎藤 康祐	田中 雄己	中嶋 学人
	萌明幼児館カヌークラブ	松戸市カヌー協会 ・エルフィンキッズ	松戸市カヌー協会 ・エルフィンキッズ
女子フラット スラローム	小島 はづき	小出 菜々子	北條 明日香
	萌明幼児館カヌークラブ	佐倉市カヌー協会	佐倉市カヌー協会

③「B&G OP級ヨット大会」

日本最大級のOP級ヨットレース大会として、初心者から世界選手権大会を目指す上級者まで参加できるクラス別のOP級ヨットレースを開催した。

併せて、水辺の安全教室、東日本大震災支援のチャリティ販売と募金活動を実施した。

ア. 「2013B&G OP級ヨット大会 東日本大会」の開催

- ・時 期：平成25年7月13日（土）～14日（日）
- ・場 所：愛知県蒲郡市 海陽ヨットハーバー
- ・人 数：109人（1府11県 18クラブ）
- ・結 果：

順位	Aクラス	Bクラス	Cクラス
1位	玉山 義規（中1・男）	川島 武継（小4・男）	鈴木 萌風（小6・女）
	丸玉セーリングクラブ	B&G兵庫ジュニア 海洋クラブ	琵琶湖ジュニア ヨットクラブ
2位	神谷 仁（中2・男）	藤原 光希（小6・男）	佐々木 凱成（小2・男）
	静岡県セーリング連盟 浜名湖ジュニアクラブ	琵琶湖ジュニア ヨットクラブ	琵琶湖ジュニア ヨットクラブ
3位	藤原 達人（中2・男）	岩城 海聖（小6・男）	蜂須賀 啓介（小3・男）
	B&G兵庫ジュニア 海洋クラブ	石川羽咋ジュニア セーリングクラブ	B&Gなごや海洋クラブ

総合	シングルハンダー
1位	玉山 裕登（高1・男）
	丸玉セーリングクラブ

※今回、「東日本大会」のみ参加者増を目的に試験的にシングルハンダー級レースも実施した。

イ. 「2013B&G OP級ヨット大会 西日本大会」の開催

- ・時 期：平成25年7月14日（日）～15（祝）
- ・場 所：大分県杵築市 住吉浜リゾートパーク
- ・人 数：99人（1都9県 17クラブ）

順位	Aクラス	Bクラス	Cクラス
1位	吉川 野乃香 (小6・女)	黒田 浩渡 (小4・男)	河野 大陸 (小4・男)
	広島セーリングスクール	B & G兵庫 Jr.海洋クラブ	B & G別府海洋クラブ
2位	前田 海陽 (小6・男)	泉 創 (中1・男)	廣田 海斗 (小3・男)
	広島セーリングスクール	B & G新居浜海洋クラブ	B & G別府海洋クラブ
3位	西澤 秀人 (中3・男)	幸野 翔太 (小3・男)	下石 雅楽 (小2・女)
	北九州 Jr.ヨットクラブ	B & G別府海洋クラブ	B & G別府海洋クラブ

3. 助成・活動支援

(1) 地域海洋センター及び海洋クラブの施設整備 ※日本財団助成事業

①通常修繕に対する助成金の交付

修繕助成を決定した海洋センターに対し、総額 478,500,000 円の助成を行った。

No.	道府県名	センター名	施設名	助成金額
1	北海道	厚岸町	体育館	3,000,000
2	北海道	下川町	プール	28,000,000
3	北海道	名寄市	プール	600,000
4	北海道	積丹町	体育館	12,500,000
5	北海道	古平町	体育館	17,200,000
6	岩手県	一関市東山	プール	5,300,000
7	宮城県	大郷町	体育館	23,100,000
8	山形県	酒田市平田	プール	13,000,000
9	福島県	柳津町	プール	6,600,000
10	茨城県	五霞町	プール	14,200,000
11	埼玉県	嵐山町	プール	7,000,000
			体育館	6,300,000
12	埼玉県	久喜市栗橋	プール	15,500,000
13	千葉県	長南町	プール	19,400,000
14	千葉県	成田市大栄	プール	7,400,000

15	新潟県	阿賀野市安田	プール	16,900,000
16	新潟県	佐渡市羽茂	プール	4,300,000
17	富山県	砺波市	プール	6,100,000
18	福井県	勝山市	プール	3,800,000
19	福井県	若狭町三方	プール	27,900,000
20	山梨県	中央市玉穂	プール	5,100,000
21	山梨県	山梨市牧丘	プール	8,400,000
22	山梨県	南アルプス市白根	プール	10,000,000
23	岐阜県	八百津町	体育館	2,400,000
24	長野県	大町市	体育館	27,700,000
25	長野県	長和町和田	プール	3,300,000
27	兵庫県	養父市おおや	プール	2,500,000
28	兵庫県	神河町神崎	体育館	6,100,000
29	奈良県	曽爾村	プール	8,100,000
30	鳥取県	鳥取市佐治	体育館	15,500,000
31	広島県	三原市久井	体育館	16,800,000
32	広島県	東広島市黒瀬	艇庫	8,200,000
33	愛媛県	松山市中島	体育館	3,100,000
34	愛媛県	愛南町御荘	体育館	24,400,000
35	高知県	津野町東津野	プール	30,000,000
36	福岡県	宗像市玄海	体育館	22,100,000
37	福岡県	福智町金田	プール	21,600,000
38	佐賀県	太良町	体育館	4,700,000
39	佐賀県	鹿島市	プール	5,000,000
40	熊本県	湯前町	体育館	11,500,000
41	大分県	中津市耶馬溪	体育館	12,400,000
42	鹿児島	湧水町栗野	プール	14,100,000
43	鹿児島	阿久根市	艇庫	600,000
44	鹿児島	薩摩川内市樋脇	プール	4,300,000
44 センター・45 施設				478,500,000

単位：円

②災害復旧修繕に対する調査及び助成金の交付

平成 26 年 2 月 14 日からの記録的な大雪の影響により、一部損壊の被害を受けた施設に対し、年度内の緊急復旧修繕として、助成金の交付を行った。

No.	道府県名	センター名	施設名	助成金額
1	岐阜県	中津川市福岡	プール	1,700,000

単位：円

③舟艇器材の配備

ア. 舟艇器材追加・再配備

申請のあった 26 海洋センター・19 海洋クラブ 計 45 ヲ所の活動状況等審査の結果、20 海洋センター・11 海洋クラブ 計 31 ヲ所の申請を受け付け、舟艇器材等 431 点（救助艇 7 艇、船外機 10 台、ライフジャケット 405 着、カヌー 6 艇、その他 3 器材）8,114,684 円相当の配備を行った。

イ. 海洋クラブ設立支援に係る舟艇器材の貸与

海洋クラブ設立支援制度へ申請のあった「三重県 亀山市関海洋センター」に対し、中古器材をはじめとする舟艇器材等 45 点（救助艇 1 艇、船外機 1 台、ライフジャケット 30 着、カヌー 6 艇、ヨット 2 艇、セールボード 2 枚、その他 3 器材 ※うち新規購入器材 496,102 円相当）の貸与を行った。

ウ. 海洋クラブ登録に係る舟艇器材の新規配備

新たに登録された 1 海洋クラブに対し、救助艇等の舟艇器材 4,377,562 円相当を配備した。

・神奈川県藤沢市 B & G 慶應医学部ヨット部海洋クラブ

2 種 16 器材（R I B 救助艇：1 艇、ライフジャケット 15 着）

購入総額：4,377,562 円（B & G 財団負担額 2,472,562 円）

※新規登録クラブへの舟艇器材配備上限額（250 万円）を越える器材配備となったため、配備先と費用分担により器材を購入し配備した。

エ. 新規海洋クラブ登録 および 海洋クラブ設立支援に係る舟艇器材の購入

平成 26 年度以降の新規海洋クラブ登録 および 海洋クラブ設立支援に係る舟艇器材を購入した。

購入総額：1,818,416 円

④決定書授与式の開催

平成 25 年度の修繕助成金額が 1,000 万円を超える 24 自治体において、修繕助成金決定書授与式を行い、29 社の新聞社と 5 社のテレビ局の取材を受け、ボートレースの収益金の有効活用について、広く住民に周知した。

⑤リニューアルオープン式典の出席

8 自治体において、修繕工事完了後に実施された「リニューアルオープン式典」に出席し、工事完了確認を行うとともに、自治体執行部をはじめ、議会関

係者、式典に出席した多くの地域住民に対し、更なる利用促進をPRした。

⑥海洋センターの現状調査

35カ所の海洋センターを対象に、市町村長や教育長等との面談のほか、海洋センターの管理・運営状況および問題点等の確認を行った。

⑦海洋センターの評価

海洋センター運営状況及び指導員の配置状況等に基づき、6段階（特A・A・B・C・D・E）の年間評価（4月～3月）及び中間評価（4月～9月）を行い公表した。

【年間評価】

- ・評価期間：平成24年度（平成24年4月～平成25年3月）
- ・公表時期：平成25年4月
- ・評価別海洋センター数

特A	A	B	C	D	E	廃止
181	128	120	31	6	1	6

⑧優良海洋センターの表彰（特A・A）

海洋センター評価に基づき、A評価以上の優良海洋センターを「第6回B&G全国サミット」で表彰した。

ア. 時期：平成26年1月30日（木）

イ. 場所：笹川記念会館（東京都港区）

ウ. 対象：特A評価181センター・A評価128センター 計309センター

⑨海洋センター存続に係る協議

海洋センター評価に基づき、2年連続でC評価以下となった3自治体に対し、首長と財団役員による、海洋センター存続等に関する協議・指導を行った。

ア. 時期：平成26年1月22日（水）、1月31日（金）、2月19日（水）

イ. 場所：B&G財団会議室（東京都港区）

ウ. 日程及び出席者：

日程	センター名	出席者	結果
1月22日（水）	兵庫県姫路市 （安富）	市民局長 山下 雅史 スポーツ振興課 主任 塩田 篤	運営改善
1月31日（金）	大分県国東市 （武蔵・国見）	市長 三河 明史 生涯学習課 課長 穴見 和彦	運営改善
2月19日（水）	山口県萩市 （むつみ）	市長 野村 興兒 総務部総務課 秘書係 藤原 勝也	運営改善

(2) 「東日本大震災」施設復旧に対する災害復旧修繕及び舟艇配備

※日本財団助成事業

東日本大震災で被災した岩手県洋野町種市海洋センターの艇庫に対し、災害復旧修繕として1,000万円を助成するとともに、海洋性レクリエーション活動の再開に必要な不可欠な舟艇器材等400万円相当を配備した。

災害復旧修繕 対象施設	助成および器材配備内容
洋野町種市海洋センター 艇庫	艇庫再建費用 10,000,000円
	救助艇1艇、船外機1台、 カヌー12艇、ヨット4艇 ロウボート3艇、ライフジャケット70着 可動式ラック3台、水上遊具2式 ほか

(3) 海洋クラブ登録等

①海洋クラブの登録及び活動促進

ア. 海洋クラブの登録

海洋性レクリエーション実施の組織作りとして、新たに「B&G海洋クラブ」を1ヵ所新規登録し、舟艇器材配備などの活動支援を行った。

- ・新規に登録した海洋クラブ

名称	登録日
B&G慶應医学部ヨット部海洋クラブ（神奈川県）	平成25年6月18日

イ. 海洋センターへの海洋クラブ設立支援

「B&G海洋クラブ」登録に向けた設立支援を海洋センター対象に行う。設立支援制度への申請があった1ヵ所に対し、舟艇器材貸与を行った。

- ・新たに支援した海洋センター

名称	支援認定日
亀山市関B&G海洋センター（三重県）	平成26年2月19日

②海洋クラブ評価の実施

海洋クラブの運営・活動状況等に基づき、6段階（特A・A・B・C・D・E）の年間評価を行い公表した。

【年間評価】

- ・評価期間：平成24年度（平成24年4月～平成25年3月）
- ・公表時期：平成25年4月
- ・評価別海洋クラブ数

特A	A	B	C	D	E(休部)
29	39	108	30	5	40

③海洋クラブの現況調査

優良海洋クラブ、新規登録した海洋クラブの活動状況確認及び登録に向けた現地調査を実施するとともに、活動が不振な海洋クラブに対して、運営上の問題点等の確認や運営継続に関する協議・改善指導を行った。

【調査箇所数】 11カ所

- ・優良海洋クラブ調査等 : 2カ所 (なごや、宮崎シーライオン)
- ・新規／おためし登録調査等 : 5カ所 (慶應医学部、恵那、新居浜、南アルプス、亀山)
- ・活動低迷クラブ調査等 : 4カ所 (山北、御菌、栗橋、幸手)

【2】 幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業

1. 地域への指導者等の斡旋および情報の提供

- (1) 幼児の心身の健康づくりを目指した運動プログラム
- (2) 中高年の生活習慣病予防を目指した運動プログラム
- (3) 高齢者の健康づくりを目指した運動プログラム

公式ホームページ、B&Gコンパス等を通じ、モデルセンター等での活動事例を紹介するとともに、活動センターの支援として健康運動プログラム実施に係る測定データ入力用PC器材の貸し出しを行った。

・貸出実績:16センター

【3】 指導者の養成に関する事業 ※日本財団助成事業

1. 「海洋性レクリエーション指導員」の養成と活用

(1) 「アドバンスト・インストラクター」の養成

主として、海洋性レクリエーション活動において実技指導に携わり、海事知識および海洋性レクリエーションの普及に努める指導員を養成した。

ア. 時 期 : 平成 25 年 5 月 30 日 (火) ~ 7 月 3 日 (水) 35 日間

イ. 場 所 : 沖縄県 本部町海洋センター (マリソピアザ オキナワ)

ウ. 対 象 : 地方自治体および財団が認める団体等から推薦があった 20 歳以上の者

エ. 人 数 : 35 名 ※養成者数累計 : 2,089 人

オ. 研修項目 : B&G財団概要、指導員概要、海洋性レクリエーション理論・実技・実習、水泳実技、安全管理、海洋センター管理・運営、健康増進プログラム、環境教育、心肺蘇生法等

カ. 講 師 :

《実 技》

氏 名	所 属・役 職	科 目
小松 一憲	B&G財団 テクニカルアドバイザー	ヨット学科・実技

濱本 徹夫	大分県別府海洋クラブ 代表	ヨット学科・実技
谷川 真理	(株)アチーブメント	ウォーキング・ジョギング
中村 真衣	(株)JSS スイミングアドバイザー	水泳理論・実技
木尾 克己	(株)JSS ゼネラルアドバイザー	

《講義》

氏名	所属・役職	科目
水越 祐一	気象キャスターネットワーク	気象・海象
椿本 昇三	筑波大学 教授	着衣泳
柳 敏晴	神戸常盤大学 教授	海洋性レクリエーション総論
小峯 力	中央大学 教授 日本ライフセービング協会 理事長	海洋性レクリエーション活動と安全
海野 義明	オーシャンファミリー 代表理事 B&G葉山海洋クラブ 代表	海洋教育と海洋環境
古瀬 浩史	(株)自然教育研究センター 取締役	インタープリテーション
中村 淳美	(株)自然教育研究センター	
渡辺 未知		

《講習》

氏名	所属・役職	科目
上野 真宏 尾辻 章 兵後 有亮 横倉 厚 篠崎 充洋	日本ライフセービング協会 公認インストラクター	心肺蘇生法 (CPR) 講習会 (日本ライフセービング協会認定)

《講話》

氏名	所属・役職	科目
工藤 祐直	青森県南部町 町長	町長講話「指導者の重要性」

《修了記念講話 特別講師》

氏名	所属・役職	科目
善岡 雅文	北海道砂川市 市長	アドバンスト・インストラクター養成研修 修了記念講話

《指導者会講話》

氏名	所属・役職	科目
川島 正光	全国指導者会 副会長 埼玉県久喜市栗橋海洋センター (アドバンスト/アゲア・インストラクター)	アドバンスト・インストラクター養成研修 指導者会講話

《サポートスタッフ》

氏名	所属・役職	科目
荻野 治義	福島県小野町海洋センター (アドバイザー/アクア・インストラクター)	先輩指導者講話、マリン実技
濱岡 邦之	愛媛県愛南町御荘海洋センター (アドバイザー・インストラクター)	カヌー実技
中村 大悟	大分県中津市耶馬溪海洋センター (アクア・インストラクター)	水泳実技、転プロ実技
古崎 敏雄	山口県周防大島町海洋センター (アドバイザー/アクア・インストラクター)	カヌー実技

(2) 「アクア・インストラクター」の養成 ※日本財団助成事業

主として、プール活動の実技に携わり、海洋性レクリエーションの普及に努める指導者を養成した。

ア. 時期：平成 25 年 5 月 30 日（木）～6 月 21 日（金） 23 日間

イ. 場所：沖縄県 本部町海洋センター（マリニピアザ オキナワ）

ウ. 対象：地方自治体および財団が認める団体等から推薦があった 20 歳以上の者

エ. 人数：43 名 ※養成者数累計：1,414 人

オ. 研修項目：B & G 財団概要、指導員概要、水泳理論・実技・実習、海洋性レクリエーション理論・実技、安全管理、海洋センター管理・運営、健康増進プログラム、環境教育、心肺蘇生法等

カ. 講師：

《実技》

氏名	所属・役職	科目
谷川 真理	(株)アチーブメント	ウォーキング・ジョギング
中村 真衣	(株)JSS スイミングアドバイザー	水泳理論・実技
木尾 克己	(株)JSS ゼネラルアドバイザー	

《講義》

氏名	所属・役職	科目
水越 祐一	気象キャスターネットワーク	気象・海象
椿本 昇三	筑波大学 教授	着衣泳
柳 敏晴	神戸常盤大学 教授	海洋性レクリエーション総論
小峯 力	中央大学 教授 日本ライフセービング協会 理事長	海洋性レクリエーション活動と安全
海野 義明	オーシャンファミリー 代表理事 B & G 葉山海洋クラブ 代表	海洋教育と海洋環境

氏名	所属・役職	科目
古瀬 浩史	(株)自然教育研究センター 取締役	インタープリテーション
中村 淳美	(株)自然教育研究センター	
渡辺 未知		

《講習》

氏名	所属・役職	科目
上野 真宏 尾辻 章 兵後 有亮 横倉 厚 篠崎 充洋	日本ライフセービング協会 公認インストラクター	心肺蘇生法（CPR）講習会（日本ライフセービング協会認定）

《講話》

氏名	所属・役職	科目
工藤 祐直	青森県南部町 町長	町長講話「指導者の重要性」

《修了記念講話 特別講師》

氏名	所属・役職	科目
佐藤 光宏	岐阜県川辺町 町長	ア夸・インストラクター養成研修 修了記念講話

《指導者会講話》

氏名	所属・役職	科目
金久 博	全国指導者会 副会長 徳島県阿南市海洋センター (アドバンスト/ア夸・インストラクター)	ア夸・インストラクター養成研修 指導者会講話

《サポートスタッフ》

氏名	所属・役職	科目
谷場 宣彦	石川県志賀町富来海洋センター (ア夸・インストラクター)	水泳実技
藤田 昌伸	高知県四万十町窪川海洋センター (アドバンスト/ア夸・インストラクター)	水泳実技
竹内 浩子	高知県四万十町窪川海洋センター (ア夸・インストラクター)	幼児アカリズム
小森田 弘憲	鹿児島県日置市東市来町海洋センター (ア夸・インストラクター)	水泳実技

(3) 「リーダーおよびジュニアリーダー」の養成委託

海洋センター等に対し、リーダーおよびジュニアリーダーの養成と、資格失効者の再登録研修を委託した。

ア. 場 所：海洋センター・海洋クラブ

イ. 対 象：海洋センターおよび海洋クラブ等において、海洋性レクリエー

ションまたは水泳指導に携わる者（リーダーは20歳以上、
ジュニアリーダーは13歳以上20歳未満）

ウ．研修項目：海洋性レクリエーションまたは水泳の基礎的な理論・実技、
安全管理等

エ．人数等：新規養成人数201人（内、ジュニア15人）、再登録4人
※養成者数累計：13,859人

（4）指導員の資質向上 ※日本財団助成事業

①指導員研修会

海洋性レクリエーションに関する事業プログラムや安全管理等の最新の知識・情報等を提供する研修会を実施し、指導員の資質向上を図ると共に指導員のネットワークづくりを推進した。

ア．時 期：平成26年1月23日（木）～24日（金）

イ．場 所：日本財団ビル（東京都 港区）

ウ．対 象：指導員資格登録者、資格失効者および海洋センター担当者

エ．人 数：174名（160センター・2クラブ）

オ．講 師： ・北田 典子 氏（公益財団法人全日本柔道連盟 理事）
基調講演 「柔道と人間教育」

・野口 智博 氏（日本大学文理学部体育学科 教授）
「水泳の安全指導」

・千足 耕一 氏（東京海洋大学海洋学部 准教授）
「海洋性レクリエーションの教育効果」

・森川 貞夫氏（市民スポーツ&文化研究所 代表）
「スポーツ事故におけるリスクマネジメント」

カ．事例発表： ・橋本 篤幸 氏（南アルプス市白根海洋センター）
「施設の維持管理」

・濱岡 邦之 氏（愛南町御荘海洋センター）
「海洋センターの運営と集客」

・村川 安亨 氏（平戸市生月海洋センター）
「海洋クラブの運営」

②レベルアップ研修会

B & G指導員等を対象に、指導員の指導技術の向上と新しいプログラムや情報の提供、安全管理等を中心とした各種プログラムの実技を中心とした研修会を行った。

※この研修会はB & G指導員資格の再登録研修として実施している。

ア．幼児運動プログラム

・時 期：平成26年2月20日（木）～21日（金）

・場 所：日本財団ビル（東京都 港区）

- ・対 象：B & G 指導員および海洋センター担当者
- ・人 数：アクア、フロア 合計 43 人
- ・講 師：今野純氏（アクアダYNAMIX）、柘澤弘樹氏（運動保育士会）、遠藤智弘氏（深川VIP体操クラブ）藤井初美氏（深川体操クラブ）

イ. 転倒寝たきり予防プログラム

- ・時 期：平成 26 年 3 月 4 日（月）～5 日（火）
- ・場 所：日本財団ビル（東京都 港区）
- ・対 象：B & G 指導員および海洋センター担当者
- ・人 数：46 名
- ・講 師：岡田 真平 氏（身体教育医学研究所 所長）、高橋 紀子 氏（ルナ・イ・ソル 代表）、横田くる美 氏（フリーランス ヨガインストラクター）

ウ. マリンスポーツ

(ア) カヌー研修会

- ・時 期：平成 25 年 9 月 29 日（日）～30 日（月）
- ・場 所：宮崎県 宮崎市 B & G シーライオン海洋クラブ
- ・対 象：B & G 指導員およびセンター担当者
- ・人 数：21 名
- ・講 師：持田 雅誠（財団職員、人材バンク特別講師）

(イ) ヨット研修会

- ・時 期：平成 25 年 11 月 5 日（火）～6 日（水）
- ・場 所：岡山県 瀬戸内市 邑久海洋センター・海洋クラブ
- ・対 象：アドバンスト・インストラクターほか
- ・人 数：17 名
- ・講 師：小松 一憲 氏（B & G 財団 テクニカルアドバイザー）

(ウ) 水泳研修会

- ・時 期：平成 25 年 10 月 7 日（月）～8 日（火）
- ・場 所：静岡県 浜松市 天竜海洋センター
- ・対 象：B & G 指導員およびセンター担当者
- ・人 数：18 名
- ・講 師：野口 智博 氏（日本大学文理学部 教授、人材バンク特別講師）

(5) B & G 指導者会の登録および活動促進 ※日本財団助成事業

指導者会の登録および活動を促進することにより、海洋センター・海洋クラブ、海洋センター道府県連絡協議会等の活動の活性化を図った。

①地域指導者会の登録数

新たに 38 センターが地域指導者会を設置した。これにより全登録数は、全体の 83%、392 センターとなった。（海洋センター数：472 センター）

②「B & G 全国指導者会」ブロック責任者会議の開催

地域指導者会の活動状況および運営上の課題等を共有し、全国指導者会および地域指導者会の活性化を図るために会議を行った。

ア. 時 期：平成 25 年 10 月 10 日（木）～11 日（金）

イ. 場 所：B & G 財団会議室（東京都 港区）

ウ. 対 象：正副会長およびブロック責任者

エ. 人 数：13 名

オ. 会議内容：平成 24 年度事業報告、決算及び平成 25 年度事業計画・予算
の確認

本会事業推進に係る方策について

指導者会設立の動向について

今後のかわら版製作について及び広報委員会の開催

財団からの報告・依頼事項

③B & G 全国指導者会正副会長会議の開催

（平成 25 年度 1 回目）

ア. 時 期：平成 25 年 4 月 26 日（金）～27 日（土）

イ. 場 所：青森県南部町

ウ. 出席者：B & G 全国指導者会

会 長 工藤 祐直（青森県南部町長）

副会長 金久 博（徳島県阿南市）

副会長 川島 正光（埼玉県久喜市）

B & G 財団 常務理事 古山 透

エ. 内 容：平成 25 年度 事業計画・予算計画に関する件
本会の 3 年間の活動方針・活動目標の推進
財団重点事業と連携・協働
その他 必要事業

（平成 25 年度 2 回目）

ア. 時 期：平成 25 年 10 月 9 日（水）～10 日（木）

イ. 場 所：B & G 財団会議室（東京都 港区）

ウ. 出席者：B & G 全国指導者会

会 長 工藤 祐直（青森県南部町長）

副会長 金久 博（徳島県阿南市）

副会長 川島 正光（埼玉県久喜市）

B & G 財団 常務理事 古山 透

エ. 内 容：平成 24 年度事業報告、決算及び平成 25 年度事業計画・
予算の確認
本会事業推進に係る方策について
指導者会設立の動向について

今後のかかわら版製作について及び広報委員会の開催
財団からの報告・依頼事項
その他 必要事業

(平成 25 年度 3 回目)

ア. 時 期：平成 26 年 2 月 12 日（水）～13 日（木）

イ. 場 所：B & G 財団会議室（東京都 港区）

ウ. 出席者：B & G 全国指導者会

会 長 工藤 祐直（青森県南部町長）

副会長 金久 博（徳島県阿南市）

副会長 川島 正光（埼玉県久喜市）

B & G 財団 常務理事 古山 透 ほか事務局

エ. 会議内容：平成 25 年度事業報告、決算及び平成 26 年度事業計画・予算
の確認

指導者会啓発冊子の内容確認

B & G コンパスの活用について

(6) 最新技能・知識等の調査研究 ※日本財団助成事業

海洋性レクリエーションを主とした各種プログラムに関わる最新技能・知識の
調査・研究を行った。

①先進事例（団体）の調査

ア. YMC A 阿南国際海洋センター

・時 期：平成 25 年 8 月 19 日（月）～21 日（水）

・場 所：YMC A 阿南国際海洋センター（徳島県 阿南市）

・内 容：ユースボランティアリーダーの研修プログラムの視察

YMC A キャンププログラムの指導法、器材、教材、安全管理等

イ. B S C ウォータースポーツセンター

・時 期：平成 25 年 11 月 6 日（水）～8 日（金）

・場 所：B S C ウォータースポーツセンター（滋賀県 大津市）

・内 容：国際セーリング公認スクールのプログラムと指導法の体験

②「指導者用教本」の作成

専門指導者の協力のもと、最新の技術や指導法を盛り込んだ O P ヨット・
水泳の指導用教本を作成し、指導者養成研修での活用のほか、海洋センタ
ー・海洋クラブ指導員に周知し、海レクの普及に努める。

ア. O P ヨット指導教本：初心者が安全に O P ヨットを操船できる 5 回コー
スのプログラム

協力指導者：濱本徹夫氏（B & G 別府海洋クラブ 代表）

イ. 水泳指導教本：育成・選手コース指導教本（中・上級者向け）

協力指導者：木尾克己氏（元 J S S スイミングスクールコーチ）

【4】ネットワーク構築と調査研究事業

1. ネットワーク構築

(1) 情報ネットワークに係る活動

①情報ネットワークの強化

ア. 情報ネットワークシステムの安定運用

全国の海洋センター・海洋クラブ、海洋センター所在自治体等との連携強化と財団事業の効果的な展開を図るため、内部ネットワークの安定した運用に努めた。

イ. インターネットを利用した大会の提供

主に海洋センター利用者を対象に、日々の練習や活動の成果を競う場として、インターネットを活用した大会を開催した。なお、大会参加者数の増加を図るため、夏の期間に「サマーチャレンジ」賞を設定し開催した。

- ・インターネット水泳記録会 申請件数： 9,542 件
- ・ウォーターマラソン 申請件数： 6,180 件
- (内、サマーチャレンジ賞 申請件数： 1,039 件)

ウ. 業務用パソコンの更新

業務用パソコンの基幹システムがセキュリティサポート期限を迎えることから、安全性を保つため機器及びソフトウェアを更新した。

②海洋センターとの情報共有の推進を図るネットワーク構築 ※日本財団助成事業
財団事業を効率的、効果的に全国に普及・展開するため、全国の海洋センター・海洋クラブ、指導者と情報・ノウハウを共有する情報ネットワークシステム「B&Gコンパス」の再開発を行った。

(2) 人的ネットワークを推進する会議等の実施 ※日本財団助成事業

① 第6回「B&G全国サミット」

「体験活動で健やかな子供の成長を～B&Gネットワークの活動事例から～」をテーマに、日本財団 笹川 陽平 会長による「日本人としての誇り」と題した特別基調講演をはじめ、各地で取り組まれている様々な子供の体験活動についての発表など、下記のとおり実施した。

また、「B&G全国市長会議」の正副会長任期満了に伴う選任が行われ、新たに静岡県掛川市 松井 三郎市長が副会長に選任された。

ア. 時 期：平成26年1月30日（木）14：00～17：30

イ. 場 所：笹川記念会館（東京都 港区）

ウ. 出席者数：760人

【出席者の内訳】

※三役（首長・副首長・教育長）出席450人（前回比110%）

項目	区分	出席者人数
海洋センター関係 360 市町村 660 人 出席率 92% (対象：390 市町村)	首長	213 人
	副首長	42 人
	教育長	195 人
	代理等	210 人
来 賓	財団理事・評議員・関係団体	40 人
報 道	マスコミ関係	60 人
合 計		760 人

エ. 内 容 :

- ・ 特別基調講演「日本人としての誇り」：日本財団 笹川 陽平 会長
- ・ 青少年の健全育成推進計画（5ヵ年）について
： B & G 財団専務理事 菅原 悟志
- ・ 事例発表 B & G ネットワークの活動事例（4自治体）
健やかな子供の成長を願い：福井県大野市 岡田 高大 市長
いのちを守る「希望の森」プロジェクト
：静岡県掛川市 松井 三郎 市長
香美町学校間スーパー連携チャレンジプラン
：兵庫県香美町 浜上 勇人 町長
少年自然の家を活用した通学合宿プロジェクト
：広島県安芸高田市 浜田 一義 市長
- ・ 第6回「B & G 全国サミット」共同宣言の確認
- ・ 2013 B & G 広報大賞表彰
- ・ 優良海洋センター表彰（「特A評価」・「A評価」表彰）

②「第10回B & G 全国教育長会議～ブロック幹事・道府県代表者～」の開催
「子供たちの健やかな成長を目指して～学校・地域・家庭の連携を考える～」
をテーマに、明星大学 高橋教授による基調講演をはじめ、4人の教育長による
事例発表、教育課題に対する自由討議「子供たちの生きる力を育む『体験活
動』の推進について」など、下記のとおり実施した。

ア. 日程：平成26年11月26日（火）14：00～17：00

11月27日（水）9：00～11：30

イ. 会 場：日本財団ビル（東京都 港区）

ウ. 出席者数：85人

項目	区分	出席者人数
海洋センター関係	教育長	45 人
	首長部局代表者	4 人
	代理	3 人
	ブロック連協幹事・随員	22 人

来 賓	財団理事・評議員・関係団体	8人
報 道	報道関係	3人
合 計		85人

※昨年度まで、ブロック連協幹事は当該年度と次年度の担当者を対象としたが、今年度は当該年度のブロック連協幹事担当者のみを対象とした。

エ. 内 容 :

- ・基調講演「教育再生は家庭・家族の再生から」：明星大学 高橋 史朗 教授
- ・B & G財団からの報告：B & G財団専務理事 菅原 悟志
- ・教育長事例発表（4自治体）
 - まちぐるみで子どもを守り育てる社会教育の推進
：北海道砂川市 井上 克也 教育長
 - 地域ぐるみで育てる心豊かな子どもたち
：福島県柳津町 目黒 健一郎 教育長
 - 地域とともにある学校づくり：山梨県甲斐市 加々美 英 教育長
 - 学校とB & Gの連携が育む生きる力：愛媛県久万高原町 松岡 廣 教育長
- ・ブロック事業の報告（各ブロック連協幹事担当者10名）
- ・自由討議「子供たちの生きる力を育む『体験活動』の推進について」
- ・B & G全国教育長会議「提言」

③「海洋センターブロック連絡協議会総会」への出席

海洋センターブロック連絡協議会および海洋センター道府県連絡協議会の活動促進を図るため、全国10ブロック連絡協議会が主催する総会に、財団の役員およびブロック担当者が出席し、財団事業等の説明ほか海洋センター表彰等を行った。

オ. 日程および出席者数等

ブロック	開催日時	開催場所	センター数	出席役職員	自治体執行部出席数	出席者数	
北海道	4月25日 (木) 13:30~	北海道 砂川市	36	広渡理事長 姫野部長 宮寄課長 菱木参事	首長	4	72
					副首長	8	
					教育長	17	
東北	4月25日 (木) 14:30~	秋田県 大瀨村	68	古山常務理事 朝日田課長 玉手課長代理 中島係長 門間課員（自治体研修生）	首長	4	87
					副首長	0	
					教育長	5	
関東	4月19日 (金) 15:00~	日本財団 ビル	42	全役職員	首長	13	70
					副首長	7	
					教育長	5	

北 陸	5月8日 (水) 14:00～	富山県 富山市	40	大島常務理事 清水次長 栗山課長代理 鈴木係長	首長	2	68
					副首長	1	
					教育長	8	
中 部	5月13日 (月) 13:30～	静岡県 掛川市	74	吉田常務理事 岡田次長 小野田課長代理 山口課員	首長	12	148
					副首長	6	
					教育長	15	
近 畿	5月23日 (木) 15:00～	京都府 京都市	45	大島常務理事 岩井次長 持田課長 高橋参事	首長	1	77
					副首長	0	
					教育長	10	
中 国	5月21日 (火) 14:00～	山口県 山口市	54	古山常務理事 遠藤部長 原田課員 木村課員 岡本課員 (自治体研 修生)	首長	2	79
					副首長	2	
					教育長	10	
四 国	5月16日 (木) 14:30～	高知県 高知市	28	広渡理事長 東條課長 林係長 大崎課員 (自治体研 修生)	首長	8	81
					副首長	3	
					教育長	11	
北九州	5月28日 (火) 15:00～	福岡県 大任町	48	古山常務理事 大関次長 仲田参事	首長	3	65
					副首長	3	
					教育長	4	
南九州	5月23日 (木) 14:00～	宮崎県 宮崎市	39	広渡理事長 田邊部長 宮寄課長 進藤課長代理 玉手課長代理	首長	3	83
					副首長	6	
					教育長	12	
平成25年度総計			474		首長	52	830

④自治体への職員派遣

各担当ブロック内の受け入れ自治体において、当財団職員が海洋センターや担当部署にて勤務する研修(2ヵ月間)を実施。自治体や海洋センターの職務体験・視察を通じて問題点を学ぶほか、人事交流を促進した。(平成17年度から延べ22名を派遣)

平成25年度 財団職員派遣者

氏 名	勤務地	期 間
小野田 智子	静岡県掛川市 教育委員会	平成26年2月1日 ～平成26年3月31日

⑤自治体からの職員研修（B & G財団自主事業）

海洋センター所在市町村から自治体職員を受け入れ、当財団事業への参画や“アドバンスト・インストラクター養成研修”をはじめ各種研修に参加し、財団への理解促進および自治体相互の協力体制の強化を図った。平成15年度からこれまでに33名を受け入れた。

平成25年度 自治体派遣研修参加者

氏名	自治体名	期間
門間 瑛司	宮城県大郷町	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日
岡本 祐子	山口県周防大島町	
大崎 あや	高知県津野町	

2. 調査研究等の活動

B & G財団事業及び海洋センター・海洋クラブの活動成果を取りまとめ、その活動の重要性や効果を検証し、B & Gプランの更なる推進を図った。

また、B & Gプランのより高度な公益性追求のため、B & G財団の戦略的事業計画策定の調査研究を行うとともに、地域が考案した事業の協働開催支援を行う。

(1) 事業成果の分析・評価

平成24年度の財団事業および海洋センター・海洋クラブの活動状況について分析し検証を行うとともに、全体を取りまとめた『B & G財団活動実績報告書』を作成・発行し、情報の公開を行った。

ア. 時期：平成25年7月1日 発行

イ. 配布先：海洋センター所在市町村長・教育長、地域海洋センター、海洋クラブ・ボートレース関係者ほか

ウ. 仕様：A4版、無線綴じ、160頁（4色126頁、単色34頁）

エ. 部数：2,200部

(2) 戦略的な事業展開のための調査研究 ※日本財団助成事業

新たな事業展開を図るために、4テーマによるプロジェクトチームを立ち上げ、新規事業の方向性および継続事業の新たな普及展開方法の検討に係る調査・検討を行った。

【プロジェクトテーマ】

- ・サマースクール：地域活性化につながる“宿泊体験型活動”の調査
- ・転倒・寝たきり予防プログラムと幼児運動プログラム：地域住民に求められているプログラム把握のため自治体に取り組む“健康づくり事業”の現状調査
- ・海洋クラブ：海洋クラブの活性化につながる支援策等の調査
- ・海洋教育：新たな海洋教育事業創設のための先進事例調査

【実施内容】

プロジェクト	実施内容
サマースクール	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なプログラム検討と視察地の確定 ・実施候補地の視察 4カ所 ・類似事業の視察 1カ所 ・トライアル実施 2カ所
転倒・寝たきり予防プログラム 幼児運動プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の実施 ・プログラムの今後の方向性について議論、検討 ・幼児親子を対象とした「水辺の安全プログラム」の実施検証及び指導現場の視察（プログラム検証：3カ所 視察：5カ所） ・高齢者ボランティアの活用についての検証 1カ所
海洋クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・他団体の現地調査2カ所 ・「基本構想」とりまとめのための議論、検討
海洋教育	<ul style="list-style-type: none"> ・方向性の検討 ・アンケート調査の実施 2回 ・方向性策定のための情報収集 18カ所

(3) 地域の特色のある事業への協力 ※日本財団助成事業

B&GネットワークとB&G指導員の特性を活かし、親子や異年齢間における海や自然に親しむ体験活動をはじめ、子どもたちの「生きる力」の育成、地域の発展・活性化を目的とする事業に対し、経費の一部補助として下記のとおり共催金の交付を行った。

【共催金交付先】

対象	決定事業数	実施事業数	決定金額	支払額
ブロック連絡協議会	10	10	2,660,000	1,965,393
県連絡協議会	1	1	300,000	300,000
海洋クラブ	5	5	1,250,000	1,200,138
指導者会	12	※11	2,725,000	2,314,523
合計	28	27	6,935,000	5,780,054

※普代村指導者会が実施予定であった「ふだいに木を植える日2」については東日本大震災の復興工事の遅れに伴い、辞退の届出があった。

3. 広報活動

(1) 広報活動

①パブリシティ広報

財団事業および海洋センター・海洋クラブの活動を広く社会へ周知するため、新聞・テレビ等へのパブリシティ広報活動を行った。

	事業名	新聞	雑誌	テレビ・CATV
1	修繕助成決定書授与式	29		5
2	修繕助成リニューアル式典	11		3
3	舟艇配備式	1		2
4	サミット	17	2	2
5	教育長会議	5		
6	ブロック総会	5		
7	海を守る植樹教育事業	11		4
8	水辺の安全教室	2		
9	体験クルーズ	4	2	
10	水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム	2	1	
11	OP 級ヨット大会(西日本大会)	4		
12	OP 級ヨット大会(東日本大会)	1		
13	全国少年少女カヌー大会	5		2
14	全国ジュニア水泳大会	8		1
15	養成研修	1		
16	レベルアップ研修会	1		
17	転倒・寝たきり予防プログラム	3	1	
18	ウォーターマラソン	2		
19	広報大賞	2		2
20	地域の特色のある事業	2		
21	海に叫びたい言葉アンケート(結果)	9		
22	海に叫びたい言葉アンケート(募集)	7		
23	WSN	2		
24	その他	6		
	合計	140	6	21

<詳細は別表 5 (42 頁) 平成 25 年度マスメディアによる広報参照>

②「水の事故ゼロ運動」の周知・啓発

「水の事故ゼロ運動」の啓発を目的に広報誌のアンドリーニュースや財団ホームページで水辺の安全教室の記事を掲載した。

③「B & G 広報大賞」の実施

海洋センターや海洋クラブの活動を、地域住民をはじめ広く社会に周知するため、積極的な広報活動を行った海洋センター、海洋クラブを選出した。

ア. 部門：「テレビの部」「新聞の部」「ホームページの部」「地域広報の部」「B & G 特派員の部」の 5 部門

イ. 審査員：

委員長 岸 ユキ (女優、B & G 財団評議員)

委員 田久保 雅己 (株舵社 常務取締役)

委員 中井 一平 (株読売新聞東京本社 常務取締役)

委員 山下 勲 ((公社)日本写真家協会 会員)

委員 加藤 雅章 (株ロボット 執行役員)

委員 小谷 和彦

(株TBS バラエティ制作部担当部長 マネジメントプロデューサー)

委員 谷川 真理

(マラソンランナー、流通経済大学客員教授、B & G 財団評議員)

委員 前岡 良徹

(株日本レジャーチャンネル 代表取締役社長)

ウ. 結果：

広報大賞

・島根県 雲南市加茂海洋センター

優秀賞

・テレビの部：3 センター・2 クラブ

・新聞の部：5 センター

・ホームページの部：3 センター

・地域広報の部：2 センター

・特派員の部：4 名

④広報誌「アンドリー NEWS (冊子)」の発行

財団の活動等を広く一般に周知するため、年 2 回発行し、海洋センター・海洋クラブほか関係団体等に配付した。

⑤オリジナルグッズの製作・販売

「海の日 T シャツ」などのオリジナルグッズを作成し、海洋センター・海洋クラブに提供した。

グッズ	販売枚数
ポロシャツ	234
T シャツ	199
ブルゾン	18
海の日 T シャツ	1,885
海の日タオル	1,132
合計	3,468

(2) インターネットを活用した情報の発信・提供

各種事業の実施報告を財団公式ホームページで紹介するとともに、参加者サービスの一環として、水泳、OP級ヨット、カヌーの全国大会の活動写真を提供するフォトアルバムも実施し、月平均 15 万ページビューの閲覧を得た。なお、Ustream や YoutubeLive を活用し、事業のライブ中継を行った。

- ・指導者養成研修開講式 視聴者数：72 件
- ・B & G 全国ジュニア水泳競技大会 視聴者数：1,616 件
- ・第 6 回 B & G 全国サミット 視聴者数：1,209 件

(3) 地域情報発信強化のための人材育成事業 ※日本財団助成事業

ブロック連絡協議会および道府県連絡協議会、海洋センター・海洋クラブの活動内容等を積極的に広報するため、「B & G 特派員」20 名を任命した。情報の提供については、「CANPAN ブログ」を活用し、215 件の情報発信を行った。

① 特派員研修会の開催

B & G 特派員の役割や業務内容、広報活動等について理解を深めるとともに、ブロックの広報リーダーとしてのスキルアップを図るため、研修会を開催した。

ア. 期 日：平成 25 年 4 月 15 日（月）～16 日（火）

イ. 場 所：日本財団会議室（第 1・2）

ウ. 対 象：ブロック連絡協議会から推薦された、B & G 指導員有資格者または海洋センター・海洋クラブの担当者

エ. 人 数：20 名

オ. 内 容：特派員の役割・意義、業務内容、広報活動について、記事の書き方、写真の撮り方、映像の撮影について、ディスカッションほか

カ. 講 師：

講師名	所属等	内容
小谷 和彦	株式会社 TBS テレビ制作局バラエティ制作部担当部長 マネージメントプロデューサー	「テレビメディアと攻める広報について」
山下 勲	公益社団法人日本写真家協会会員 B & G 広報大賞審査委員	「写真の撮り方」（基礎編・応用編）
市川 和彦	マリッジジャーナリスト B & G 財団特約ライター	「記事の書き方」（基礎編・応用編）
千葉 好則	フリー報道カメラマン B & G 財団オフィシャルカメラマン	「映像の撮影について」

② B & G 特派員一覧

	ブロック	都道府県	センター名	特派員氏名	年齢	就任期間	B G 資格
1	北海道	北海道	厚岸町	森下 高	29	H24～H25	A D
2		北海道	沼田町	岩井 俊直	32	H25～H26	A D
3	東北	岩手県	盛岡市玉山	鈴木 学	39	H24～H25	A Q
4		秋田県	男鹿市	大淵 辰臣	29	H25～H26	A Q
5	関東	茨城県	行方市玉造	野原 嘉典	40	H24～H25	A D
6		群馬県	明和町	島田 聡	40	H25～H26	A D
7	北陸	石川県	穴水町	和田出 勝則	38	H24～H25	A D
8		富山県	上市町	山本 英希	25	H25～H26	A D
9	中部	静岡県	掛川市大須賀	河原崎 貴広	26	H24～H25	A D
10		山梨県	甲斐市双葉	石井 誠	21	H25～H26	A Q
11	近畿	滋賀県	野洲市中主	中野 良博	37	H24～H25	A D
12		京都府	京丹波町和知	川野 雅夫	29	H25～H26	A D
13	中国	岡山県	井原市美星	田邊 裕章	37	H24～H25	A D
14		山口県	田布施町	松田 翔	25	H25～H26	L E
15	四国	愛媛県	愛南町御荘	濱岡 邦之	34	H24～H25	A D
16		高知県	香美市香北	大石 康人	25	H25～H26	A Q
17	北九州	長崎県	佐世保市小佐々	藤田 幸一郎	37	H24～H25	A D
18		福岡県	大任町	岩下 啓一	42	H25～H26	A D
19	南九州	沖縄県	伊江村	万寿 祥久	44	H24～H25	-
20		鹿児島県	南さつま市坊津	現王園 仁志	39	H25～H26	A D

【収益事業】

1. 土地賃貸事業

旧東京海洋センターの跡地（江東区深川）を「ホームセンターコーナン」に賃貸し、安定的な賃貸料収入を得た。この収入は当財団の公益目的事業及び管理運営業務等の経費支出に活用した。

別表 1

役 員 名 簿

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

役 職	氏 名	現 職
会長	梶 田 功	一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会 会長 (元) 大阪府 箕面市長 (元)
専務理事	菅 原 悟 志	
常務理事	古 山 透	
理事	重 由美子	アトランタオリンピック470級ヨット 銀メダリスト
〃	高 良 文 雄	沖縄県 本部町長
〃	山 中 健	兵庫県 芦屋市長
監 事	篠 原 通 夫	篠原会計事務所 公認会計士・税理士
〃	西 本 克 己	株式会社東京ビー・エム・シー 代表取締役社長

(非常勤役員は五十音順)

別表 2

評 議 員 名 簿

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

	氏 名	現 職
議長	小 高 幹 雄	BOAT RACE振興会 会長
評議員	遠 藤 容 弘	公益財団法人日本ゲートボール連合 専務理事
〃	岸 ユキ	女優
〃	工 藤 祐 直	B & G 全国サミット 副会長 B & G 全国町村長会議・B & G 全国指導者会 会長 青森県 南部町長
〃	小 峯 力	日本ライフセービング協会 理事長 中央大学 教授
〃	今 義 男	海洋政策研究財団 理事長
〃	谷 川 真 理	マラソンランナー 流通経済大学 客員教授
〃	西 嶋 泰 義	大分県 佐伯市長
〃	皆 川 浩 二	一般財団法人日本モーターボート競走会 会長
〃	吉 田 和 夫	B & G 全国サミット・B & G 全国市長会議 会長 新潟県 胎内市長

(五十音順)

別表 3

専 門 委 員 名 簿
(海洋センター施設整備委員)

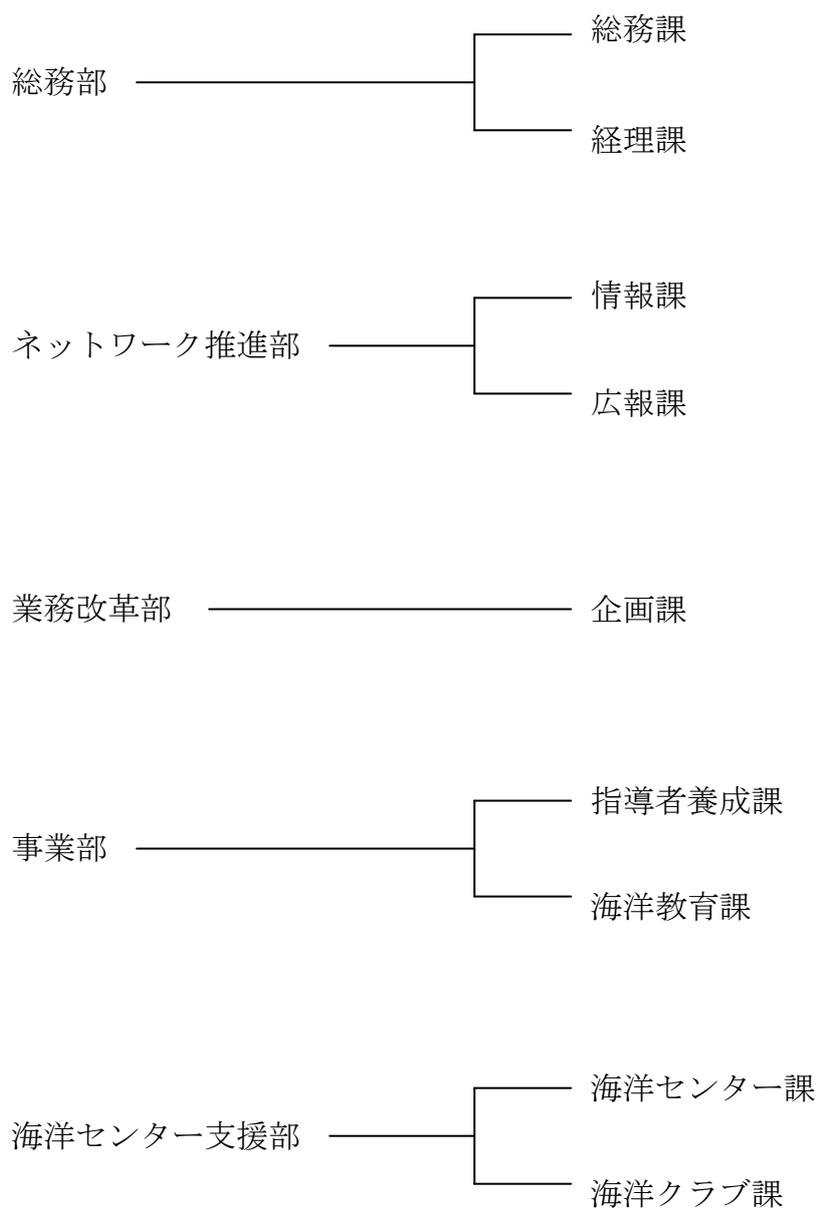
(平成 26 年 3 月 31 日現在)

	氏 名	現 職
委員長	小 池 保 夫	一般財団法人日本モーターボート競走会 専務理事
委員	宇 井 成 一	千葉県 香取市長
〃	大 西 英 輔	オオニシアーキテクト 代表取締役
〃	小 林 元 一	株式会社松田平田設計 大阪事務所 副所長
〃	田久保 雅 己	マリンジャーナリスト会議 (M J C) 会長 株式会社舵社 常務取締役
〃	田 畑 誠 一	鹿児島県 いちき串木野市長
〃	広 瀬 秀 貴	BOAT RACE振興会 常務理事

(五十音順)

事務局 機 構 図

平成 26 年 3 月 31 日現在



※財団内に設置のウォーターセーフティニッポン事務局は平成 26 年 3 月 31 日付閉鎖

別表 5

平成 25 年度 マスメディアによる広報

	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	修繕助成 決定書授与式	埼玉県嵐山町海洋センター	埼玉新聞	2013/4/18
2		〃	埼玉北よみうり	2013/4/26
3		新潟県阿賀野市安田海洋センター	建設工業新聞	2013/4/23
4		〃	新潟建設新聞	2013/4/25
5		〃	あがの新報	2013/5/15
6		山形県酒田市平田海洋センター	山形新聞	2013/4/25
7		〃	荘内日報	2013/4/26
8		茨城県五霞町海洋センター	茨城新聞	2013/5/13
9		宮城県大郷町海洋センター	大崎タイムス	2013/5/11
10		〃	河北新報	2013/5/14
11		〃	朝日新聞	2013/5/14
12		愛媛県愛南町御荘海洋センター	愛媛新聞	2013/5/20
13		滋賀県米原市伊吹海洋センター	中日新聞	2013/5/21
14		〃	ZTV 米原市行政放送	2013/5/17
15		福井県若狭町三方海洋センター	日刊県民福井	2013/5/14
16		〃	福井新聞	2013/5/22
17		〃	美方ケーブルテレビ	2013/5/7
18		高知県津野町東津野海洋センター	RKC 高知放送	2013/5/17
19		〃	高知新聞	2013/5/18
20		熊本県湯前町海洋センター	熊本日日新聞	2013/5/22
21		福岡県宗像市玄海海洋センター	西日本新聞	2013/5/24
22		北海道下川町海洋センター	名寄新聞	2013/5/30
23		〃	北都新聞	2013/5/30
24		大分県中津市耶馬溪海洋センター	日刊大分建設新聞	2013/6/1
25		〃	大分合同新聞	2013/6/16
26		〃	中津市ケーブルネット	2013/6/1
27		福岡県福智町金田海洋センター	西日本新聞	2013/6/5
28		山梨県南アルプス市白根海洋センター	山梨日日新聞	2013/7/25
29		埼玉県久喜市栗橋海洋センター	朝日新聞	2013/7/27
30		千葉県長南町海洋センター	千葉日報	2013/7/30
31		長野県大町市海洋センター	大町市ケーブルテレビ	2013/7/31
32		〃	大糸タイムス	2013/7/26
33		岩手県洋野町種市海洋センター	岩手日報	2013/7/31
34		〃	デーリー東北	2013/7/31

	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	修繕助成 リニューアル式典	鹿児島県与論町海洋センター	南海日日新聞	2013/4/7
2		福岡県久留米市三潁海洋センター	くーみんテレビ	2013/5/6
3		〃	くーみんテレビ	2013/6/3
4		〃	くーみんテレビ	2013/6/18
5		〃	朝日新聞	2013/6/2
6		岡山県奈義町海洋センター	山陽新聞	2013/6/13
7		〃	山陽新聞（夕刊）	2013/6/13
8		兵庫県香美町香住海洋センター	神戸新聞	2013/6/12
9		〃	日本海新聞	2013/6/14
10		北海道斜里町海洋センター	毎日新聞	2013/6/16
11		〃	読売新聞	2013/6/16
12		千葉県香取市山田海洋センター	千葉日報	2013/6/30
13		〃	読売新聞	2013/6/30
14		高知県香美市香北海洋センター	高知新聞	2013/7/30
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	海洋クラブ 器材配備式	岐阜県恵那海洋クラブ	アミックスコム	2013/8/12
2		愛媛県新居浜海洋クラブ	愛媛新聞	2013/9/1
3		〃	ハートネットワーク	2013/9/1
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	第6回B&G全国 サミット		海事プレス	2014/1/16
2			日本海事新聞	2014/1/23
3			滋賀報知新聞	2014/1/28
4			京都新聞	2014/1/30
5			読売新聞	2014/1/31
6			下野新聞	2014/1/31
7			室蘭民報	2014/1/31
8			日本海事新聞	2014/2/1
9			中日新聞	2014/2/6
10			静岡新聞	2014/2/7
11			福井新聞	2014/2/6
12			東愛知新聞	2014/2/8
13			教育新聞	2014/2/10
14			海上の友	2014/2/11
15			教育家庭新聞	2014/2/17
16			中部経済新聞	2014/2/17

	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
17	第6回B&G全国 サミット		沖縄タイムス	2014/3/11
18			週刊レース	2月20日号
19			志ぶき	3月号
20			レジャーチャンネル	2014/1/30
21			福井放送	2014/1/31
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	第10回教育長会議		室蘭民報	2013/11/28
2			日本教育新聞	2013/12/9
3			教育新聞	2013/12/16
4			教育家庭新聞	2014/2/3
5			教育新聞	2014/2/10
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	ブロック総会	北陸ブロック連絡協議会	北國新聞	2013/5/9
2		〃	富山新聞	2013/5/9
3		北海道ブロック連絡協議会	プレス空知	2013/5/11
4		中部ブロック連絡協議会	中日新聞	2013/5/14
5		東北ブロック連絡協議会	湖畦時報	2013/5/23
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	海を守る植樹 教育事業	北海道せたな町海洋センター	北海道新聞	2013/5/28
2		〃	函館新聞	2013/6/6
3		石川県穴水町海洋センター	石川テレビ	2013/8/25
4		〃	穴水チャンネル	2013/9/1
5		〃	北國新聞	2013/8/26
6		〃	北陸中日新聞	2013/8/28
7		岩手県奥州市前沢海洋センター	胆江日日新聞	2013/9/8
8		〃	岩手日日新聞	2013/9/8
9		北海道遠別町海洋センター	日刊留萌新聞	2013/11/7
10		山口県周防大島町海洋センター	読売新聞	2013/11/12
11		〃	中国新聞	2013/11/14
12		〃	アイキャン	2013/11/15
13		島根県雲南市加茂海洋センター	NHK	2013/11/26
14		〃	島根日日新聞	2013/11/29
15		鹿児島県与論町海洋センター	南海日日新聞	2013/12/24
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	水辺の安全教室		毎日新聞	2013/8/11
2			海上の友	2013/8/21

	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	体験クルーズ		海上の友	2013/4/1
2			日本海事新聞	2013/4/19
3			教育家庭新聞	2013/4/22
4			教育新聞	2013/5/2
5			モーターボート選手新聞	2013/6/1
6			K A Z I	6月号
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	水に賢い子どもを 育む年間型活動 プログラム	B&G 財団の取り組み	海と安全	No. 557
2		島根県浜田市三隅海洋センター		2013/7/19
3		愛媛県久万高原町久万海洋センター		2013/7/21
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	OP 級ヨット大会	告知	大分合同新聞	2013/7/12
2		〃	大分合同新聞	2013/7/13
3		〃	大分合同新聞	2013/7/14
4		(西日本大会)	大分合同新聞	2013/7/18
5		(東日本大会)	東日新聞	2013/7/14
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	全国少年少 女カヌー大会		読売新聞	2013/7/25
2			北國新聞	2013/8/1
3			千葉日報	2013/8/4
4			山梨日日新聞	2013/8/14
5			高知新聞	2013/7/31
6			河口湖ケーブルテレビ	2013/8/1
7			京丹波町ケーブルテレビ	2013/8/1
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	全国ジュニア 水泳競技大会		読売新聞	2013/8/18
2		北海道室蘭市海洋センター	室蘭民報	2013/8/18
3		〃	毎日新聞	2013/8/20
4		富山県富山市八尾海洋センター	北日本新聞	2013/8/22
5		〃	富山新聞	2013/8/22
6		青森県鶴田町海洋センター	陸奥新報	2013/8/24
7		千葉県鋸南町海洋センター	房日新聞	2013/8/25
8		〃	千葉日報	2013/8/26
9			レジャーチャンネル	2013/8/18

	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	アドバンスト/アクア・イン ストラクター 養成研修		琉球新報	2013/6/3
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	レベルアップ 研修会		宮崎日日新聞	2013/10/1
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	転倒・寝たきり 予防プログラム	三重県熊野市紀和海洋センター	南紀新報	2013/9/7
2		〃	南紀新報	2013/12/3
3			公明新聞	2013/11/8
4			社会保険	社会保険 763
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	ウォーター	富山県氷見市海洋センター	北日本新聞	2013/6/30
2	マラソン	〃	富山新聞	2013/7/1
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	広報大賞	島根県雲南市加茂海洋センター	山陰中央新報	2014/2/17
2		〃	島根日日新聞	2014/2/17
3			レジャーチャンネル	2013/12/17
4			レジャーチャンネル	2014/1/17
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	地域の特色のある事業	(3Sキャンプ) 中部ブロック	海上の友	2014/2/21
2		(防災キャンプ) 海陽町海南指導者会	徳島新聞	2014/3/3
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	大切にしたい島 アンケート (結果)		八重山毎日新聞	2013/7/13
2			南日本新聞	2013/7/13
3			電波タイムズ	2013/7/17
4			南海日日新聞	2013/7/15
5			室蘭民報	2013/7/17
6			日本海事新聞	2013/7/30
7			海上の友	2013/8/1
8			交通新聞	2013/8/5
9			新潟日報	2013/8/5
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	大切にしたい島		宮崎日日新聞	2013/5/26
2	アンケート (募集)		山口新聞	2013/5/26

	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
3	大切にしたい島 アンケート（募集）		北海道新聞（夕刊）	2013/5/28
4			京都新聞（夕刊）	2013/5/31
5			奈良新聞	2013/6/7
6			海上の友	2013/6/11
7			神戸新聞	2013/6/12
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	WSN	WSN 標語表彰式	海上の友	2013/4/11
2		〃	教育家庭新聞	2013/4/22
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	その他	解答乱麻（菅原専務）	産経新聞	2013/7/27
2		〃	〃	2013/10/5
3		〃	〃	2013/12/14
4		〃	〃	2014/2/22
5		親子で楽しむキャンプ術紹介	室蘭民報	2013/7/26
6		年頭所感	教育家庭新聞	2014/1/1

前記のとおり相違ありません。

平成26年5月28日

公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

会 長 梶 田 功

平成25年度の事業報告書を監査したところ適正かつ正確であることを認めます。

監 事 篠 原 通 夫

監 事 西 本 克 己

平成 25 年度事業報告 附属明細書

平成 25 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 26 年 6 月

公益財団法人

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団